



「ごみを『護美』に しませんか

市民リポーター 小畑 和子 (二井田・高村)

ごみの量を減らし、きれいな環境を守っていくための第一歩として、昨年の四月、指定袋によるごみの分別収集がスタートし十一月たちました。

指定袋によるごみ収集と処理の実情を知りたく、ごみ焼却場を訪れ、鳴海係長さんからお話を伺いました。

収集されるまでは

本人の責任

分別収集がスタートしてから大部分の家庭では規定通り分別して出しているようですが、分別の仕方がきちんとできていない家庭も一部にあるため、ごみ処理の機械が壊れたり、人手が余分にかかったりしてコスト高になり、年間かなりのお金が無駄になっているそうです。ちゃんと分別して出していない人がいるため、私たちの大切な税金が無駄に使われているのです。

ごみが収集されるまでは、出した本人が責任を持たねばならないのです。



今、日本ではごみの捨て場所が無くなってきています。工場や建設現場から出る産業廃棄物の不法投棄は後を絶たず、一部の処分場では水源汚染を招くなど新たな問題を引き起こしています。家庭から出る一般廃棄物の処理コストも上昇する一方です。日本中の自治体のごみ減らしに懸命になっています。

厚生省が全国の市町村を対象にアンケート調査した結果、四年十月現在、三五%にあたる千三百三十四市町村が「有料化している」と回答したそうです。ごみ袋を指定し、処理費用の一部

を上乗せして販売する方法がほとんどで、中には処理券を用いているところもあるそうです。

昨年六月、全国市長会は「ごみ処理は大きな財政支出につながり、使い捨て商品のはんらんを招いている」と、有料化を盛り込んだ廃棄物対策を提言しました。

ごみを減らすための

私の10力条

私たちの大館市が住みよい街になるか否かは、市民一人ひとりの努力によると 생각합니다。

ごみを減らすために、私は次の事を実践しています。

- ・分別をしっかりして、日時を守って指定された場所に出す。
- ・生ごみは、コンポストで処理し堆肥として利用する。
- ・子供会や老人会などのリサイクル活動に積極的に参加し、資源ごみの再生利用に協力する。
- ・使い捨て商品はなるべく買わない。



ごみ焼却場中央操作室

- ・過剰包装の物は買わないようにする。
- ・トレイやパックなどは、回収している所へ持っていく、再利用に役立てる。
- ・スーパの透明なビニール袋は、穴をあけて水きり袋として使用し、買物袋などはいくつと再利用する。
- ・家で使っている物が壊れたら、すぐ新しい物を買うことはせず、修理や部品の交換をする。
- ・暮らしの中で、リサイクル用品を使用する。(トイレレットペーパーなど)
- ・まだ使えるけどいらなくなった物は、バザーに出したり必要な人に譲ったりする。
- ・不用品のリサイクル運動として広まったフリーマーケットは、各地で人気を集めています。
- ・資源をごみにしないためにも、大館市でも、市民が持ち寄った不用品を売買する場を設けるとか、広報などに不用品や必要な

品物の情報を掲載するとかしたらどうでしょうか。

「護美」は市の活力

大分県のある町では、十年前から指定袋によるごみの分別収集を始めました。ごみ処理場の周囲は公園になっており、処理場にはちり一つ落ちてなく、もちろん嫌な臭いもしないそうです。行政の地道なPRと町民の協力で成功し、生ごみは全部堆肥として再生産し町民に還元され、余熱は近くの地区の温泉や温室に配給され、ハウス園芸に役かっていると聞いたことがあります。お母さんに手を引かれた幼児でも、道に捨てられた空き缶を見つけると「アッ! 缶が落ちてる」と駆け寄って拾うそうで、クリーン作戦の徹底がみられます。

市民一人ひとりがごみに関心を持ち、ごみが市のきれいな環境を護っていく「護美」になるように、自分たちの生活に目を向けることが大切ではないでしょうか。

大館市も、今後、行政と業者と消費者(市民)三者一体の取り組みにより、真の共通理解を深め美しい環境の追及を行うことにより、ごみ変じて「護美」となり、楽しい市の活力となることを信じます。